

## 第6学年「理科」の学力向上のための方策

### 児童の実態（成果と課題の分析）

- 成果**
- 理科学習を肯定的に捉える児童の割合が9割を超え、意欲的に学習に取り組む児童が多い。
  - 丁寧に観察や実験を行い、その結果を的確に記録することができる。
- 課題**
- ▼ 感染対策としてグループワークや対話が長期間制限された影響は大きく、対話等により思考を練り上げる力が弱い。（児童の学力の分布が双耳傾向があり、指導のミスマッチも疑われる。）
  - ▼ 学習事項を日常生活で表現したり応用したりする意識や態度が十分に育っていない。

### 指導の重点（身に付けさせたい力）

- ◆ 理科に対する自己肯定感を醸成する。（曖昧な自信「やってみようかな」の定着）
- ◇ 問題解決に資する科学的な見方や考え方を、学校として系統的に確実に育むこと。
- ◇ 自然科学に関する体験や情報、調べ学習を充実させ、その有用性を意識させ態度化を図る。

\*凡例 ●■：上半期において手ごたえを感じているところ

### 具体的な改善策

#### 主体的に学習に取り組む態度のための工夫

- 単元や時間の自己の学習問題を明確に意識させ、自分事として解決するスパイラルを進める。
- 問題解決の過程を見通す活動や自らの学びを振り返る活動を常時行う。

#### 言語活動の工夫

- 学習事項の発信を積極的に行い、オーラルなコミュニケーション力を育む。
- 文字や表、グラフ、情報を活用した「思考の見える化」を進める。

#### ICT活用の工夫

- 児童の学習ツール、特に思考・表現のツールとしてその活用を図る。
- 毎時間の学習の振り返りの中で、追加情報を検索するようにする。

#### 課題解決力育成の工夫

- 学習過程の構造化と見える化を進める。問題解決スパイラルの徹底を図る。
- 対話や思考ツールを活用して、ロジックを確認し高める取り組みを進める。
- 理科学習の基礎となる自然体験の一層の充実を図る。そのために、新たな教具の利用や一人一栽培・一飼育活動の展開、外部関係機関との協働と見学の開発を進める。

### 達成目標

- 学習指導要録の評価において、A評価を2割向上、C評価を2割減少させる。
- 各種学習調査において、各観点ともに3ポイントの改善を図る。
- 理科学習を肯定的に捉える児童の割合を10割に、完全達成する。